

子どもの学びの過程からみたジェンダーフリー教育

学習臨床過程分野（135050）

松下 尚

hisa-kazu@msb.biglobe.ne.jp

1 研究の背景と目的

心の教育の必要性が指導要領でも指摘され、中でも実践的な力の育成を一層重視している。今まで実践力を育成するために、道徳の時間以外の各教科、特別活動などと関連させ、体験を通して実践してきた。

心情が高まらない、実践力が伴わないのは、体験の場が少なく、教師自身が、心情や判断力を高め、実践力を培う体験の場を意識していないのではないかと考えた。

そこで、総合単元的な道徳学習を展開してきたが、それだけでは、十分ではなく、意図的に単元として構成されなくても、全教育活動で道徳教育が行われていることを理解し、道徳の時間外の活動でも指導していく事が大切で、心情も、体験を通してさらに、高められていくと考えた。

総合的な学習も、体験学習を意識して単元構想に取り入れているが、生き方を学ぶのは構成されたものだけでなく、日常の学習活動の中に隠されていると考え、教科を通して道徳教育を考えることにした。そして、心の教育の中でも間口を狭めて、ジェンダー教育にしばって研究を進めることにした。

ジェンダーフリー教育は、個としてみる視点が大切であり、ジェンダーフリーを培う教育では、性差にとらわれず、子どもの個性を尊重し道徳性（社会性と人間性）を築く。性差をなくすという狭い考えでとらえず、男女

のらしさがその子をプラスにするものもいいと考える。また、性差をなくそうとしてその人らしさをはき違えないようにし、自分らしさは周囲とのかかわりで育つものであると考える。そして、多様な選択肢の中から選び採った生き方を尊重することが大切であると考ええる。

そういったジェンダーフリーの思想を理解した上で、個に合わせた支援が必要となると考えられる。

そこで、ジェンダーフリー教育では、先入観や固定観念にとらわれず、十分に児童理解した上での支援が必要であり、さらに、その上で、多様な選択肢を与えてやれるような支援を考えたい。

なぜ、ジェンダーフリー教育なのか、以下の4点が挙げられ、

- ・ 個を大切にすると人権教育の根元とつながる共通の課題であること
- ・ 道徳的心情を高めることができても、容易に実践することができないこと。
- ・ 今まで、一般的に社会に認められず、あまり問題視されていなかったこと。
- ・ 道徳的实践にかかわる葛藤が生まれるものであること。

これらの4点から、今、ジェンダーフリーの研究実践が必要と考えられる。

また、研究を進めていくにあたって、ここ数年の間に増えているジェンダー研究の中か

ら、学校にかかわるジェンダーの先行研究（ジェンダーフリーにかかわる研究、小学校現場での研究）を参考に、子どもの学ぶ過程の中でどんな支援が考えられるかを考えてきた。

2 研究の方法

・所属校において、昨年度11月に1, 3, 5年, 教職員に意識調査を行った。同時に実態調査（観察、ワークシート、ポートフォリオ）を全学年、各教科、特別活動を通して行った。給食、昼休み、清掃、帰りの会、下校の様子を観察した。特に総合、生活の時間などを中心とした相互交流のある授業での子ども一人一人の様子を観察した。ジェンダーフリーの視点に沿った子どもの表れ（無意識で行っている子どものジェンダー）を洗い出し、（教科の違いを超えて共通なもの違うもの）を見つめ直した。

・本年度は、昨年度の意識調査・実態調査よりさらに詳しく6年生について教科を絞って観察調査を行った。

3 意識調査の分析及び事例調査

- (1) 教師のジェンダー意識の現状
多様な選択肢を与える支援
先入観や固定観念にとらわれた支援
- (2) 子どものジェンダー意識の実態
男女別のジェンダー意識
発達段階別ジェンダー意識
- (3) 学年や教科をしぼった事例調査
- (4) 意識調査で個を見つめ、追求した調査

4 考察

・無意識のうちに植え付けられたジェンダーの意識があるので、男女の性にとらわれない支援が必要である。

- ・ジェンダーフリーの視点に立ち、壁を乗り越えられるように個性を見極めた多様な選択肢を与える支援を考える必要がある。
- ・子どもたちが男女の特性を意識することは、ジェンダー意識の芽生えである。
- ・ジェンダーの芽生えは、発達段階によって差があり、児童を理解することで、その子の本当の気持ちに迫ることができる。
- ・先入観にとらわれずゆとりをもって、長所を伸ばす支援が必要である。
- ・個を大切に支援していく中で、支援後の見届けが大切になる。
- ・教師として主観的に子どもを観る目は大切だが、成長していく子どもたちに合わせて、教師は絶えず、新しい主観的な目を持ちたい。

5 本研究の結果と教育実践への提案

- (1) 授業を通して行う子どもへのジェンダーフリー教育の実現
道徳に限らず、体育、音楽、総合などいろいろな教科の学びから見る事ができた。子どもの言動の過程を克明にすることでジェンダーにかかわる事象が見られた。こうした観察を基盤にジェンダーフリーの支援を行う事ができた。
- (2) 今後のジェンダーフリー教育の在り方
ジェンダーフリーの問題点 教師の意識改革の手立て
性差を認め、人権を尊重したジェンダーフリー教育
ジェンダーフリーの家庭への啓発

連絡先 E-mail hisa-kazu@msb.biglobe.ne.jp

指導教官 戸北凱惟